



令和6年

8月 健やか子育てだより

大田区保育サービス課
保育園看護師

今月のテーマ

夏のやけど



夏は、強い日差しに熱せられた乗り物や遊具などに触れたり、バーベキューや花火をしたりして、やけどをすることがあります。こどもは大人に比べて皮膚が薄く、自分で症状を上手く訴えられない場合があり、重症化しやすいです。今月は、注意したい夏のやけどについてお知らせします。

《こんな場面に注意！》

【乗り物や遊具】

- ・ベビーカーや自転車のこども用シートに座る
- ・すべり台などのスチールやステンレス部分に触れる



【バーベキュー】

- ・熱い鉄板に触る
- ・着火用ライターに触る



【花火】

- ・火花が衣服に移る
- ・火花が足元に落ちる



《やけどの応急処置のポイント》

直ちに！

- 流水で15-30分間冷やしましょう
冷やすことでやけどが深くなるのを防ぎ、痛みを和らげることができます
強い流水は、皮膚をはがしてしまうおそれがあるので注意しましょう
- 水ぶくれはやぶらないように注意しましょう
やぶけると細菌感染を引き起こすリスクが高くなります
また、服を脱がせることで水ぶくれがやぶれる可能性があるため、服は着たまま冷やしましょう



やけどの部分に水ぶくれができて、皮膚が白や黒に変色している、
やけどの範囲が広いなどの場合には皮膚科医の診察を受けましょう

安全に気を付けて、楽しく夏を過ごしましょう！

- ・着火用ライター等はこどもの手の届かないところに保管しましょう
- ・花火やバーベキューなどをする場合には、必ず大人と一緒にいきましょう
- ・炎天下では、こどもが座ったり触れたりするところが熱くないか、事前に確認しましょう
- ・こどもに火の危険性を伝えると共に自分でやけどを防げるよう、成長に応じた説明をしましょう